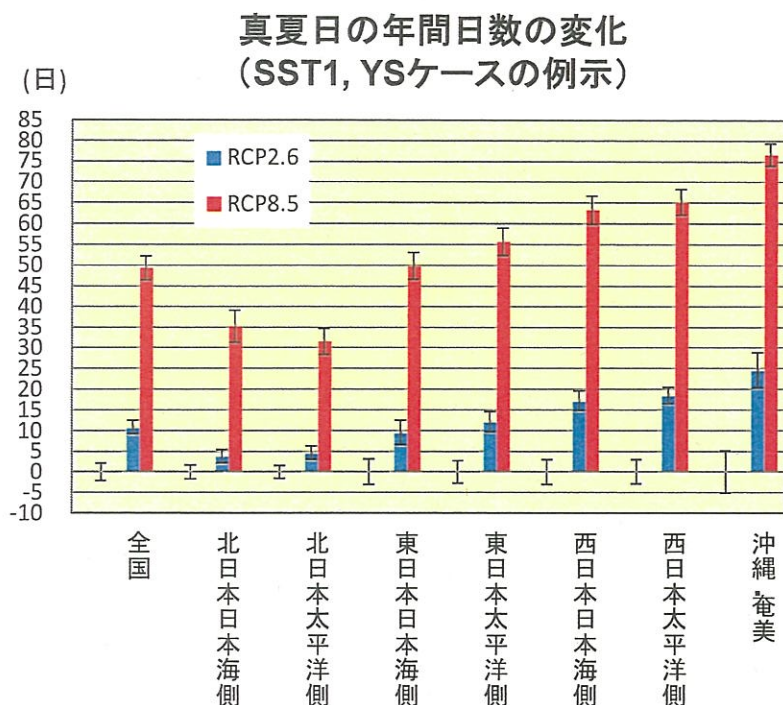


3. 整備された情報の特徴 将来気候の予測／気温(真夏日日数の変化)

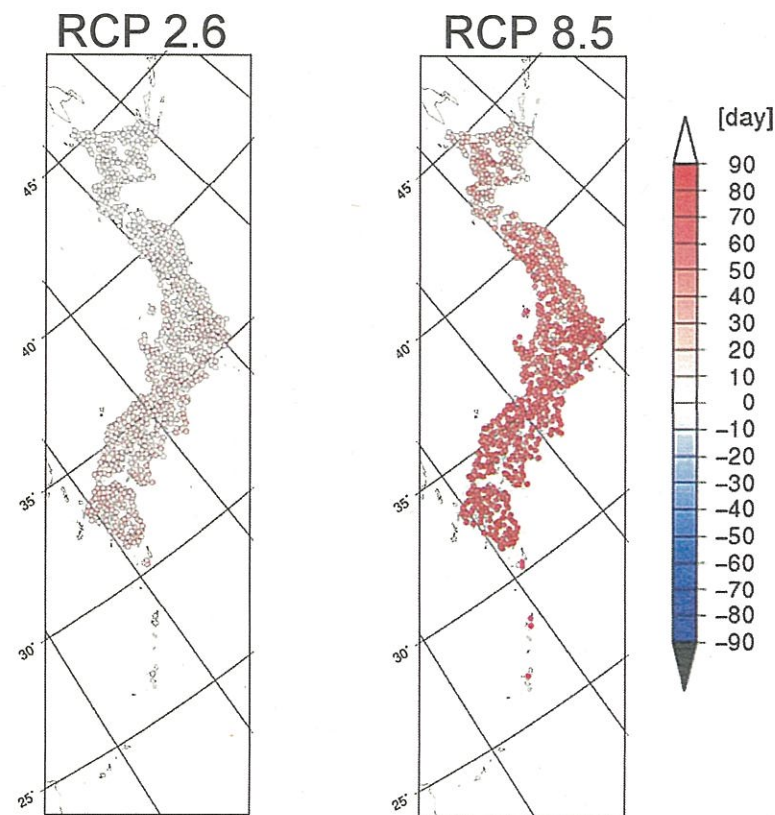
●真夏の年間日数の地域分布

※バイアス補正(参考資料参照)後のデータを使用

- 真夏の年間日数は全国的に増加し、増加幅は年々変動幅より概ね大きい。特に西日本及び沖縄・奄美での増加幅が大きい。
- 以下に、SST1,YSケースの計算結果を例示する。



棒グラフ : 現在気候との差(青:RCP2.6、赤:RCP8.5)
 エラーバー : 年々変動の標準偏差
 (棒グラフがないもの: 現在気候)

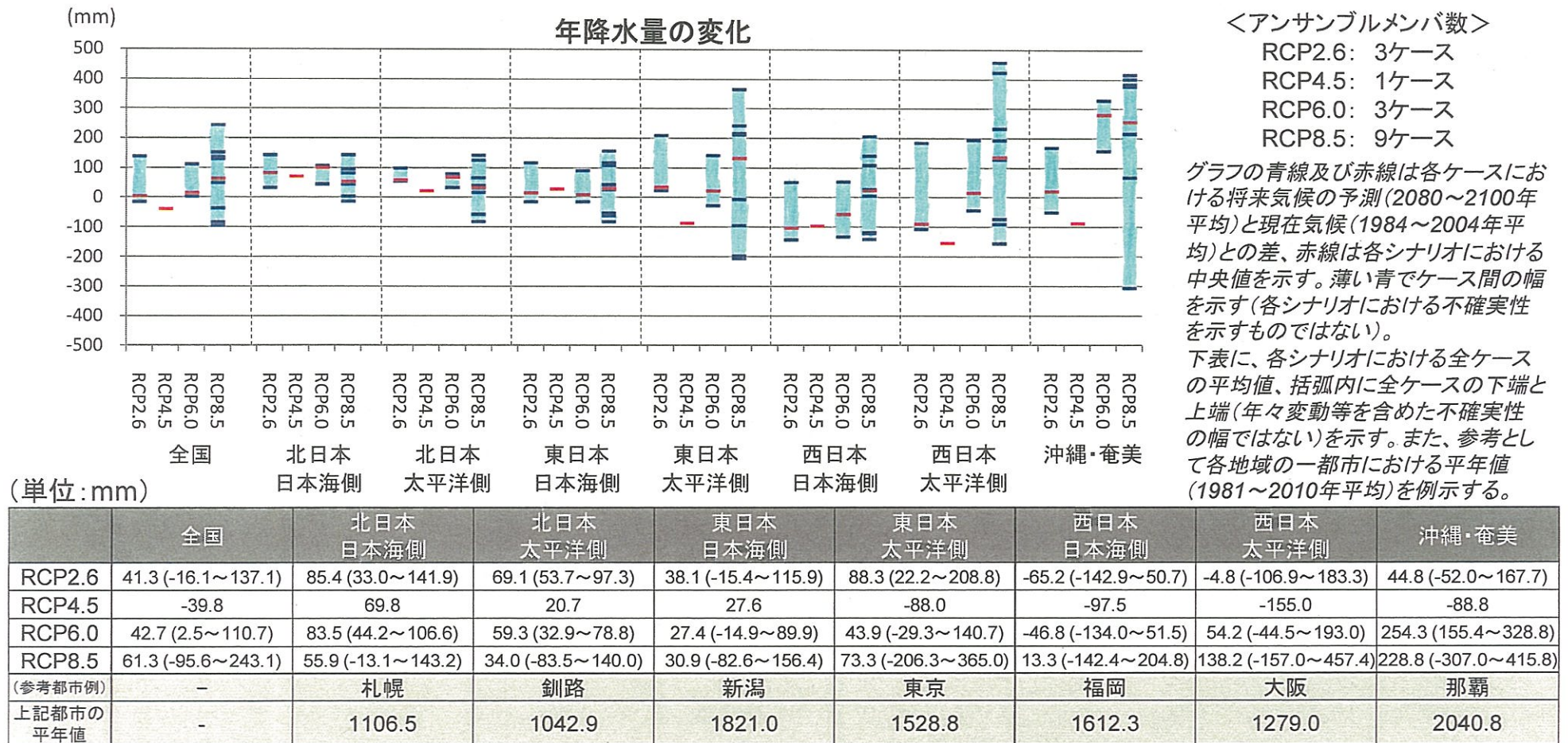


真夏の年間日数の変化の分布(SST1, YSケースの例示)

3. 整備された情報の特徴 将来気候の予測／降水(年降水量の変化)

●年降水量の変化

- 年降水量は、ケースによって増加する場合も減少する場合もある。



モデル計算結果の現在気候をベースにした変化量の地域平均と、一地点の観測値である平年値とは、単純に比較できるものではない。
また、都市例は代表的な都市をあげているが、地域の気候の代表値ではない。

3. 整備された情報の特徴 将来気候の予測／降水(年降水量の変化)

●年降水量の変化の地域分布

- 年降水量の将来における増減幅は年々変動幅より概ね小さく、統計的に有意な変化はほとんど見られない。
- 以下に、SST1,YSケースの計算結果を例示する。

